

夢の後押し

倉敷市立船穂中学校1年 河合 彩吹

私の叔母は、スイートピーを育てる花農家だ。農業を始めて、今年で4年目になる。農家になる前は、まったく違う職種の会社に勤めていた。叔母が、農業を始めると聞いて、妹である私の母や、祖父や祖母もとてもおどろいていた。私も、ずっと勤めている会社があるのになど不思議に思ったし、軌道に乗るまでの生活費などは、どうするのだろうと心配もしていた。それを、叔母にたずねると、「2年間の研修期間から、自分で農業を始めて、軌道に乗るまでの5年間は、国からの補助が出るんだよ。」

と教えてくれた。調べてみると、「農業次世代人材投資事業」という次世代を担う農業者を目指す人に対し交付される補助金があることを知った。そしてそれは、税金でまかなわれていることも知った。国からの補助に加え農業を始めるにあたって必要な設備や資材を購入したり、スイートピーを育てるための肥料を購入したりする際にも、市からの補助が出るということも教えてくれた。それを知って、こういう所にも税金が使われているんだとおどろいた。もし、この補助金がなかったとしたら、本当に一から自分の力だけで農業を始めなければならなかったと思う。そうだとすると、長年勤めていた会社を辞めてまで叔母が農業を始めていたかも分からない。

この補助金のおかげで叔母は、農業という新しいことにチャレンジする機会を得ることができたと思う。私も叔母の手伝いでビニールハウスでのスイートピーの手入れや、農業マルシェでスイートピーを売ったりもした。マルシェでたくさんの人に叔母が育てたスイートピーを手にとってもらい、みんなにきれいだねと言ってもらって、とてもうれしかったし、楽しかった。叔母の育てたスイートピーでたくさんの人が笑顔になり、なんだか私までほこらしい気持ちになった。そんな体験ができたのも、叔母が思い切って農業にチャレンジしたからだ。その大きな決断をしたのも、この税金でまかなわれる補助金の力も大きいと思う。そして叔母だけでなく、これから農業者を志すたくさんの人たちの後押しになるだろう。私たちが納める税金で、未来ある誰かの夢を叶えるためのお手伝いができるかもしれない。その誰かが育てた物で、別の誰かを笑顔にできるかもしれない。そう考えると私も誰かの役に立っているんだと思えて、なんだかうれしくなるし、ほこらしい気持ちになる。